Erist. tenax の蛹

幼虫期の前気門の跡

胸部呼吸器

幼虫の後部呼吸器の毛

ハナアブ

第一節

第二節

モハブトハナアブ

第一節

第二節

宇治にて採集せる幼虫

第一節

第二節

高槻にて採集せる幼虫

第一節

第二節

器の第一節と第二節の毛の有無、大きさ、形によつても鑑別出来る。又前気門と体毛に於て前記二種と区別し得る幼虫を二、三得たが、未だ羽化に成功せず種名を明にし得なかつたが、この幼虫の特徴をも併せ述べた。

〔京都府立医大医動物学教室〕

キンバエ類の研究(第3報)

Akaza, S.: Studies on blow flies. (Part III).

赤 座 獎

研究第一第二の概要を報告し、

1) 京都地方に於けるキンバエ類を主とした蠅類の消長を続行調査報告。

2) 越冬状態を観察検討して、その結果を報告す。

(例) 7/XI⁵⁰ 産卵の *Calliphora vomitoria* 幼虫は、前蛹期迄は比較的順調に経過しているが、23/XII 現在、羽化は一匹も見ず、且蛹化百分率は平均約 56% である。

3) キンバエ類幼虫形態として

a) 後気門間距離と後端横径との比の変化状態、併せて

b) 主なる *Lucilia* spp. の幼虫鑑別

の検討結果を報告す。〔京都府立医大医動物学教室〕

日本産クロバエ科 (Calliphoridae)

及びニクバエ科 (Sarcophagidae)

の幼虫の形態について

Kano, R. and Sato, K.: Morphological studies on the larvae of Calliphoridae and Sarcophagidae of Japan.

加 納 六 郎 佐 藤 孝 慈

衛生上重要な日本産ハエ類に関しては、小林、堀、加

藤等の研究により、分類、生態各方面で次々と新事実が報告されている。しかしハエ類の幼虫に関しては、分類、生態、駆除の各方面において不明の点が多。一方臨床方面で蠅蛆症 (Myiasis) が屢々見られ、之ら寄生蛆の鑑別が要求されるし、又駆除事業を行うに当つて如何なる場所に如何なる蛆が発生しているかを調査する必要がある。そこで私共は約1年間に亘り、先ずハエ類幼虫の分類を志し、ニクバエ科10種、クロバエ科13種、イエバエ科6種、合計29種の衛生上有害なハエ類の幼虫を得ることに成功した。方法は野外で卵の成熟した雌成虫を捕え、腰高シャーレ内に個別飼育して、卵、各齢幼虫、蛹、更に次代の成虫雌雄を得るのである。現在まではニクバエ科及びクロバエ科に重点を置いた爲、之らは大部分の種類を知り得たが、イエバエ類は極めて重要なもののみを飼育した。現在までに判明した29種の幼虫は前気門、後気門、咽頭骨、各体節前後縁の棘の配列、後端肉質突起等の形状により、属は勿論種の鑑別も可能である。各種についての記載鑑別、検索表等は別の機会に発表することとし、ここには幼虫の判明した種名を挙げるにとどめる。クロバエ科: *Calliphora vomitoria*, *Aldrichina grahmi*, *Triceratopyga calliphoroides*, *Lucilia ampullacea*, *L. caesar*, *L. illustris*, *L. papuensis*, *L. tokyensis*, *Phaenicia sericata*, *Ph. cuprina*, *Phormia regina*, *Protophormia terrae-novae*, *Chrysomya pinguis*, ニクバエ科: *Sarcophaga peregrina*, *S. similis*, *S. melanura*, *S. crassipalpis*, *S. albiceps*, *S. tsushimae*, *S. striata*, *S. kawayuensis*, *S. septentrionalis*, *S. sp.* イエバエ科: *Musca domestica vicina*, *Muscina stabulans*, *Stomoxys calcitrans*, *Op-hyra leucostoma*, *Fannia canicularis*, *Fannia scalaris*.

〔傳染病研究所衛生動物研究室〕

日本産クロバエ科(Calliphoridae)

雌背腹板の形状による分類

Kano, R. and Sato, K.: Taxonomic studies on the Japanese Calliphoridae by the morphology of female abdominal tergites.

加 納 六 郎 佐 藤 孝 慈

クロバエ科の雌産卵管の背腹板による分類は Patton が1934年にオビキンバエ属 (*Chrysomya*) の数種に、

1935年にクロバエ属 (*Calliphora*) の数種について記載しているが、キンバエ属その他のものの記載はない。日本においては、此の方面に関する報告が全く見られない。実際に腐肉等を集るものは雌の方が雄よりも遙かに数が多く、諸方面の研究に際して雌の分類は極めて重要な意義をもつ。

しかるに雌の種の鑑別特にキンバエ属では之が甚だ困難であつて、現在までは頭部の計測等に頼つていた。しかし此の計測はその差が僅であるので手技煩雜且つ不正確な欠点がある。著者等は雌産卵管背腹板のみならず第1～第5腹板の形状を合わせ調べると、極めて類似の種でも明瞭に鑑別し得ることを見出し、之を基に検索表を作り、實際面に應用している。現在まで日本で記載されているクロバエ科のハエは14種であり、著者等は此の14種について記載を試みた。

その詳細は省略し、ここにはその種名を記すにとどめる。即ちオオクロバエ *Calliphora vomitoria*, ケバカバエ, *Aldrichina grahmi*, フタオクロバエ *Triceratopyga calliphoroides*, クロキンバエ *Phormia regina*, ルリキンバエ *Protophormia terrae-novae*, ホホグロオビキンバエ, *Chrysomya pinguis*, オビキンバエ, *Chrysomya megacephala*, キンバエ, *Lucilia caesar*, コガネキンバエ, *Lucilia ampullacea*, ミドリキンバエ, *Lucilia illustris*, ミヤマキンバエ *Lucilia papuensis*, トウキョウキンバエ, *Lucilia tokyensis*, ヒロツキンバエ, *Phaenicia sericata*, ヒツジキンバエ *Phaenicia cuprina* の14種である。〔傳染病研究所衛生動物研究室〕

東京附近のキンバエ類の一種について

Hori, K.: On a common species of the green-bottle fly obtained in and about Tokyo. (A new record of the genus *Hemipyrellia*.)

堀 克 重

東京都内やその近郊では、特異な形態を有する一種のキンバエの類が採集される。本種の特徴は、雄の額の幅が狭いこと、正中剛毛の配列が2+2であること、GS₂に側板に沿う長い突起を有すること、及び雄の交尾器其の他の形態であつて、本邦産の他の既知種とは容易に区別される。